

# 日本ビジネス実務学会 会報 78号

Bulletin of the Japan Society of Applied Business Studies, No. 78

発行日/2023年3月31日発行

編集/日本ビジネス実務学会(広報委員会)

事務局/〒470-0207 愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233

東海学園大学経営学部内

URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

## 《ブロック研究会活動報告号》

会長あいさつ

「より実務的に現実的に、理論と実践を積み上げること」

会長 米本倉基(東海学園大学)



本学会名称を、日本ビジネス実務学会へ変更した1996年当時の会長、故和野内崇弘先生は、その年の講演で「本学会の特徴の一つは、实际的であり、現実的な教育研究である。現実離れた机上の空論ではなく、より実務的に現実的に、理論と実践を積み上げることに特徴がある。その意味で、この学会にとって、現実の変化をとらえきれず、現実的な有効性を失うことは、存立に関わる問題である。」と本学会のレゾンデートル(存在意義)を示されました。当時、大学教員へ転職したばかりの小生に「大学組織は、企業みたいに単純じゃないんだよ」と、その難しさを語られたことを思い出します。その後、私は学会活動を通して、歴代会長の先生方に公私にわたり薫陶を賜りました。特に前々の池内健治先生と前の椿明美先生には、時として食事や盃を交わしながら、「実務的に現実的に、理論と実践を積み上げること」の伝承と発展を託されましたが、この6月をもって、名称変更後の初代会長の森脇道子先生、そして大宮登先生、福井有先生、池内健治先生、椿明美先生から受け継いだバトンを新しい会長

へ繋ぎます。

任期4年間は、やはり新型コロナウイルス感染症による社会の変化に翻弄されたと思います。本学会の強みである多様な経歴をもつ教員が、自由闊達な雰囲気でも語り合う、顔の見える活動が思うように出来なかったのはとても残念です。その一方で、ほぼ自前でオンラインによる全国大会を成功させるなど、変化に柔軟に対応できるビジネス実務の本領発揮を実証できたことは大きな収穫でもあります。

そんな感傷に浸る間もなく、時代はポストコロナへ進んでいます。次回、全国大会では、現地開催ということで、会長職を終え、ほんとに皆様に感謝するとともに、ひとりの学会員として、大いに語り、聴き、食べ、飲み、元会長で故福井有会長が同じ開催校として壇上で語られた「楽しく学べてためになる学会」を心にとめながら目一杯堪能したいと思います。6月の次回全国大会で皆様にお会いできますこと楽しみにしております。

## CONTENTS

会長あいさつ	1
ブロック研究会活動報告	
北海道ブロック、関東・東北ブロック	2
中部ブロック、近畿ブロック	3
中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロック	4
各委員会からのお知らせ・事務局からの連絡・新入会員の紹介・第42回全国大会のご案内	5

## ブロック研究会活動報告

研究発表一覧の矢印(→)以降に示された番号は次の研究対象領域を示しています(詳しくは学会HPをご参照ください):【1】ビジネス実務教育 1)カリキュラム検討 2)ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発 3)教育方法の研究、【2】ビジネス実務研究 1)ビジネス環境とビジネス実務 2)人材育成と能力開発。

また、運営委員一覧は2023年3月現在のものです、◎はブロックリーダー、○はサブリーダーを示しています。

### 北海道ブロック

#### ●2022年度 北海道ブロック研究会

日時:2023年2月23日(木・祝)  
会場:Zoomによる遠隔方式  
のべ参加人数:9人

#### ●研究発表

発表なし

#### ●勉強会

テーマ:新しい時代のコミュニケーションツール

##### 企業事例①

「コミュニケーションツールのメリットと課題」  
寺田ひかる氏(ハミューレ(株)人事課)

##### 企業事例②

「某航空業界における社内教育-オンラインと対面の棲み分け-」  
沖田省吾氏(某航空会社総務部人財戦略課)

2022年度ブロック総会にて勉強会で取り上げてもらいたい3テーマのうち2テーマ(新しい時代のコミュニケーション、新しい時代の仕事の仕方)に関連する内容について本勉強会で取り上げました。2社の企業事例は、アフターコロナでの大学で求められる効果的なオンライン教育や対面教育との差別化への示唆が含まれていた他、プロジェクト学習を効果的に進める新しいコミュニケーション手法とそこに必要な仕掛け(場づくり)があり、活発な意見交換が行われました。

●総括:ブロック総会では、総会時含め年3回の勉強会実施を掲げましたが、結果2回の開催となってしまいました。年々アクティブ会員が減少傾向にある中で勉強会充実からブロックの存在意義を引き続き示していきたいと考えます。次にブロック研究会の研究発表が今年度1件もあがりませんでした。ブロック研究会の発表機会が全国大会への発表へと連動することから、次年度はこの辺の課題にも着手していきます。

#### ●運営委員一覧

◎千葉里美(札幌国際大学)

○和田早代(札幌国際大学短期大学部)

高橋秀幸(北海道武蔵女子短期大学)

小林純(札幌国際大学短期大学部)

小山田健(北海道文教大学)

### 関東・東北ブロック

#### ●2022年度(第49回)関東・東北ブロック研究会

日時:2023年2月11日(土)  
会場:Zoomによる遠隔方式  
のべ参加人数:21人

#### ●研究発表一覧

大島武(東京工芸大学)

「プレゼンテーション教育における指導ポイントに関する考察 -映像分析と相互評価を手がかりとして-」  
→【1】の3)

#### ●実践事例報告一覧

牛山佳菜代(目白大学)

「ゼミPBLにおける上級生メンターの参加意義 -ロケ地活性化策の企画提案を通して-」→【1】の3)

#### ●パネル・ディスカッション

「ニューノーマル時代のビジネス環境と採用活動~ウィズコロナ・アフターコロナを見据えて~」

##### パネリスト:

岩下直樹氏(株式会社小田急トラベル 業務サポート部 総務務人事担当 課長)

山崎香林氏(東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社 人事部企画グループ 人事企画部 採用室 室長)

小島行博氏(富士通HRコンサルティング株式会社 人材採用センター センター長  
兼 富士通株式会社 Employee Success 本部 人材採用センター シニアマネージャー)

#### ●オンライン・バズセッション

パネル・ディスカッションの提言を基に、ブレイクアウトルームに分かれて参加者同士の意見交換を行いました。パネリストにも加わっていただくことができ、全員参加型の研究会が実現できました。

●総括:今年度も2度の運営委員会とブロック研究会・ブロック総会を全て遠隔方式で開催しました。総会では収支報告、昨年度の活動報告、今年度予算案等を確認すると同時に、ブロック総会の時期見直しについて次年度以後の時期見直しを提案しました。研究会では企業の人事担当者3名を迎えてのパネル・ディスカッションと同時に、ブロック伝統のバズセッションも再開することができました。運営委員の分担もパネリスト招致に始まり研究会当日の分担、ブロック会報の執筆・編集に至るまで、全員がバランスよく業務に関わることができたと感じた2022年度でした。

## ●運営委員一覧

- ◎宮田篤（青森中央短期大学）
- 齋藤裕美（多摩大学）
- 関憲治（昭和女子大学）
- 大島武（東京工芸大学）
- 大塚映（湘北短期大学）
- 上岡史郎（目白大学短期大学部）
- 金世煥（淑徳大学）
- 小松由美（目白大学短期大学部）
- 周藤亜矢子（宇都宮大学大学院）
- 坪井明彦（高崎経済大学）

## 中部ブロック

### ●2022年度ブロック研究会

日時：2023年2月25日（土）  
会場：Zoomによる遠隔方式  
のべ参加人数：15人

### ●研究発表一覧

- 米本倉基・成田互（東海学園大学）  
「医療分野におけるドローン活用の現状と人材育成の課題」→【2】の2）  
大須賀元彦・富田宏・林勇人（中京学院大学）  
「地方小規模私立大学経営学部におけるコミュニケーション力評価の一考察」→【2】の2）

### ●ミニシンポジウム「ブロック研究会とDX」

進行：手嶋慎介（愛知東邦大学）

### 実践報告

中川雅人（中部学院大学）  
「JSABS第41回全国大会の運営におけるDXの実践例」

### パネルディスカッション（第41回全国大会実行委員）

中川雅人（中部学院大学）  
岡野大輔（金城大学）  
山本恭子（名古屋学芸大学）  
上野真由美（名古屋女子大学短期大学部）  
坂田裕介（藤田医科大学病院）

### ●総会

日時：2023年2月25日（土）  
会場：Zoomによる遠隔方式  
のべ参加人数：37人（委任状24人を含む）

●総括：新型コロナウイルスの完全収束が見込めないことから、総会・ブロック研究会ともに、3回目のオンライン開催となりました。参加者・発表件数ともに前年より少なくなりましたが、活発な意見交換がなされ、充実した研究会となりました。また、ミニシンポジウムでは、新型コロナで普及したオンラインの活用等、今後のブロック研究会のあり方について考えることができました。

### ●運営委員一覧

- ◎中川雅人（中部学院大学）
- 岡野大輔（金城大学）
- 山本恭子（名古屋学芸大学）
- 上野真由美（名古屋女子大学短期大学部）

- 梶山亮子（千葉経済大学短期大学部）
- 坂田裕介（藤田医科大学病院）

## 近畿ブロック

### ●2022年度（第59回）近畿ブロック研究会

日時：2023年2月18日（土）  
会場：甲子園学院本部・甲子園短期大学  
のべ参加人数：18人

### ●研究発表一覧

岩井貴美（近畿大学）  
「新規開講科目『トランジション論』の検討について」  
→【1】の3）

### ●フォーラム

「ビジネス実務教育に金融教育をどう取り入れるか？」  
発表者：樋口勝一（甲子園短期大学）  
パネリスト：岩井貴美（近畿大学）  
司会：坂本理郎（大手前大学）

### ●研修会

「SWOT分析とネットワーク解析の融合を契機とした大学改革～IRとEduinformaticsをもとにしたデータ駆動型大学改革～」  
講師：高松邦彦先生  
（東京工業大学教授、博士[理学]、専門は数学/IR）

### ●その他の活動報告：助成研究報告

（最終報告）  
高松直紀（大阪樟蔭女子大学）、児島尚子（大阪樟蔭女子大学）、苅野正美（奈良女子大学大学院）、若生眞理子（滋賀短期大学）、福井就（大手前学園）、樋口勝一（甲子園短期大学）  
「秘書技能検定が大学生のキャリアレディネスに及ぼす効果～メタ認知の効果を考慮して」

（中間報告）  
福井就（大手前学園）  
「東南アジア（ベトナム・ミャンマー）からの留学生募集研究」

水野武（摂南大学）  
「PBL型科目履修学生の何が成長要因となり得るのか～社会的ネットワーク、自己効力感への着目」

●総括：近畿ブロックとしては2019年度以来の対面開催となり不安もありましたが、概ねスムーズな運営ができました。研究発表や助成研究報告に加えて、「フォーラム」を実施し、参加者の活発な意見交換が行われました。研修会では、会員の興も高い大学改革におけるIR活用について、とても分かりやすく講義いただきました。終了後は、懇親会ではなく「情報交換会」を開催し、お茶とお菓子を楽しみながら、互いの教育・研究に関する話題を共有することができました。参加者が18人と少なめでしたが、対面ならではの交流ができたことは参加者一同が感じた点であり、次年度以降は少しずつ回復していくことが期待されます。

## ●運営委員一覧

- ◎樋口勝一（甲子園短期大学）
- 福井就（大手前学園）
- 坂本理郎（大手前大学）
- 掛谷純子（京都女子大学）
- 水野武（摂南大学）
- 高松直紀（大阪樟蔭女子大学）
- 北村雅昭（大手前大学）
- 荻野正美（プール学院短期大学）
- 岩井貴美（近畿大学）

●総括：安田女子大学の素晴らしい発表ステージで学生プレゼンテーションを開催でき、また、研究発表も6件と去年を大幅に上回り、対面方式での良さを発揮できた研究会でした。残念ながら懇親会はコロナの影響もあり直前に中止せざるを得ませんでした。2年後の全国大会ではぜひ対面式で、この安田女子大学の美しい施設を会員の方々に見ていただきたく思いました。

## ●運営委員一覧

- ◎堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）
- 関由佳利（高松短期大学）
- 吉田順子（広島女学院大学）
- 加渡いづみ（四国大学短期大学部）
- 佐々木公之（中国学園大学）
- 佐藤麻衣（高松短期大学）

## 中国・四国ブロック

### ●2022年度（第38回）中国・四国ブロック研究会

日時：2022年8月27日（土）、28日（日）  
会場：対面方式（当番校：安田女子大学）  
のべ参加人数：13人

#### ●研究発表一覧

- 福本章（大阪成蹊大学）  
「コンピテンシ-評価と学修ポートフォリオの活用について-キャリア教育における学修成果の可視化の取り組みより-」 → 【1】の3）
- 桐木陽子（松山東雲短期大学）  
「コロナ禍における保育士の就業実態と離職とバーンアウト防止のための支援の在り方」 → 【1】の3）
- 名和晋也（岡山県立新見高等学校）  
「販売実習を実施して得るビジネスパーソンの能力-商業高校生の調査より-」 → 【1】の3）
- 金岡敬子（山陽女子短期大学）  
「学生調査からみたコロナ禍の影響と課題」 → 【1】の3）
- 佐々木公之（中国学園大学）  
「YouTube等を活用しての久米南町下柵地区でのPBLと社会人基礎力」 → 【1】の3）
- 佐々木公之（中国学園大学）  
「YouTube導入によるビジネス実務教育への多様な可能性とその効果検証」 → 【1】の3）

#### ●ゲストスピーカーによる講演

「くらしとお財布のランキング」  
講師：加渡いづみ氏  
（四国大学短期大学部教授・中国・四国ブロック会員。四国放送テレビの情報番組『ゴジカル』では暮らしとお金のお話を理解する「くらしの泉」のコーナーを担当するなど、番組コメンテーターとしても活躍中。）

#### ●第2回・ブロック共同研究助成に関して

本年度は「短期大学生の就職に向けた初年次教育に関する研究」（佐藤麻衣・高松短期大学・代表研究者）が採択されました。昨年度・第1回採択の「YouTube導入によるビジネス実務教育への多様な可能性とその効果検証」（佐々木公之・中国学園大学・代表研究者）については規定通り、発表が行われました。

#### ●第17回学生プレゼンテーション大会（対面方式）

ブロック研究会初日に同時開催。山陽女子短期大学2組2名、安田女子大学1組5名、中国学園大学2組2名の合計5組9名の学生が参加。詳細についてはブロック会報・第36号をご覧ください。

## 九州・沖縄ブロック

### ●2022年度（第65回）九州・沖縄ブロック研究会

日時：2023年2月25日（土）  
会場：Zoomによる遠隔方式  
のべ参加人数：15人

#### ●研究発表一覧

- 石橋慶一（中村学園大学短期大学部）  
「キャリア開発学科における組織的編入学支援の取り組みの現状と課題」 → 【1】の1）
- 村江史年（北九州市立大学）  
「被災地に残る廃校等を活用した防災学習プログラムの開発」 → 【1】の2）
- 見館好隆（北九州市立大学）  
「越境学習が大学生のキャリア形成に寄与する可能性の検討-『奈良県川上村スタディーツアー』の事例を用いて-」 → 【1】の3）

#### ●基調講演（パネルディスカッション）

「大学における『越境学習』の活用について」  
講師：石山恒貴氏（法政大学大学院教授）

●総括：研究発表3件とゲスト講師の石山恒貴氏による基調講演の2部構成で実施しました。石山講師から示された「越境学習」という新たな観点からの教育方法へのアプローチは大変興味深く、イノベーションを創出する人材育成方法として示唆に富むものでした。九州・沖縄以外のエリアからも参加いただき、発表者だけでなく、参加者とインタラクティブで活発な意見交換がなされ有意義な研究会となりました。

#### ●運営委員一覧

- ◎見館好隆（北九州市立大学）
- 江藤智佐子（久留米大学）
- 天野祿郎（MC&フューチャーコンサルティング）
- 石橋慶一（中村学園大学短期大学部）
- 井上奈美子（福岡県立大学）
- 大重康雄（志学館大学）
- 藤村やよい（久留米信愛短期大学）

## 各委員会からのお知らせ・事務局からの連絡

■総務・企画委員会  
委員長 関憲治（昭和女子大学）

当学会が2019年度に新設した「ビジネス実務研究助成」には、2022年度は個人研究（B）2件の申し込みがあり、厳正な審議の結果、個人研究（B）2件を採択しました。なお、この「ビジネス実務研究助成」は、助成額自体は少ないものの、若手の先生方や実務家から転身して日が浅い先生方のスタートアップ支援が主な目的ですので、継続研究を認めないという条件や、テーマの異なる研究であっても同一の正会員は2年連続で助成を受けることができないといった条件があります。

今後とも若手の先生方や実務家から転身して日が浅い先生方からのご応募をお待ちしております。

■研究推進委員会  
委員長 見館好隆（北九州市立大学）

昨年2022年6月に開催しました全国大会（第41回・オンライン）においては、学会奨励賞の審査についてのコーディネートを行いました。また、「ビジネス実務研究助成」の申請者に対する審査をコーディネートとしました。最後に、2023年6月開催予定の全国大会（第42回・大手前学園さくら夙川キャンパス）の発表について、前年度に研究助成を受けた会員の発表のコーディネートを行いました。

■編集委員会  
委員長 手嶋慎介（愛知東邦大学）

『ビジネス実務論集 No. 41』への投稿は10編、審査通過は4編でした。最終的には論文1編、資料3編の計4編（うち理論・調査研究2編、教育開発研究2編）となりました。残念ながら、例年よりも投稿数が少なかったのですが、論文としての掲載はあります。次号では、より多くの投稿をよろしく願いいたします。

■広報委員会  
委員長 堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）

学会報77号を、予定通り2022年9月に発行し、次の78号（本号）を2023年3月に発行しました。また、Facebook等のSNSによる情報発信を継続しています。

■事務局  
事務局長 河合晋（岐阜協立大学）

所属、郵送先住所、会員種別、登録メールアドレスに変更があった場合、または退会ご希望の場合は、学会事務（business.jitumu@gmail.com）までご連絡ください。円滑な事務局運営にご協力をお願いいたします。

## 新入会員の紹介（2022年7月～2023年2月）

### ■正会員

（氏名・敬称略）	（所属先）	（所属ブロック）
成田 互	東海学園大学	中部
大須賀元彦	中京学院大学	中部
榎澤祐一	愛知東邦大学	中部
団野大樹	株式会社 ipoca	関東・東北
森本卓治	徳島文理大学短期大学部	中国・四国
友川礼	松山東雲女子大学	中国・四国
上原秀教	株式会社レグリンク	関東・東北
筈井俊輔	小樽商科大学大学院	北海道
富田宏	中京学院大学	中部
高松邦彦	東京工業大学	関東・東北
今井匠太郎	東京工業大学	関東・東北

## 第42回（2023年度）全国大会のご案内

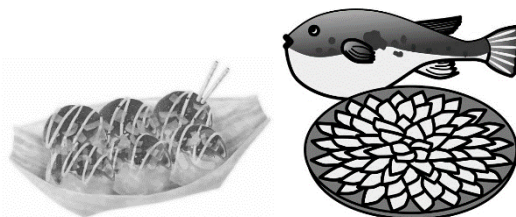
### ■近畿ブロック主催

統一テーマ「ビジネス実務教育を測る」

■会場：大手前学園さくら夙川キャンパス  
（開催方式：対面）

■日時：2023年6月10日（土）～11日（日）

実行委員長：樋口勝一（甲子園短期大学）  
事務局長：高松直紀（大阪樟蔭女子大学）



詳細については、第42回全国大会・第1号通信または学会HPをご覧ください。

## 日本ビジネス実務学会会報 No. 78

日本ビジネス実務学会・広報委員会  
（堀口誠信・千葉里美・小松由美・中川雅人・坂本理郎・佃昌道・江藤智佐子）

JSABS  
Japan Society of Applied Business Studies

広報委員会専用 e-mail : 2019jsabs.publicrelations@gmail.com